

岐阜市新庁舎の建物性能等に関するご意見

■議場部の天井内及び室内環境

- ・ 一般的な鋼板屋根構造で吹付断熱しているため、構造的に問題はないと考えます。
- ・ 空調効率の向上や結露対策として、議場屋根部の断熱性能を更に強化しておく方が良いと考えます。
- ・ 季節の変化に合わせて、天井内の換気環境を変えると良いと考えます。
夏季の換気方法としては、一例として、外部に排気する空調の空気を天井内に経由して排気することで天井内の気温や湿度が下がるため、この結果、議場内の空調効率が向上するとともに、結露が発生しにくい環境となると考えられます。
また、冬季については、夏季の場合とは異なり、加湿した空調空気を天井内に入れると、結露の原因となるため、排気の方式を変えて直接、外部に排気することが望ましいと考えます。
- ・ 天井内のスペースは、広くて歩行も可能であるため、メンテナンスなども容易となり、有効であると考えます。

■最上階（18階）等の室内環境

- ・ 最上階の執務室や3階の執務室の一部スペースは、断熱がされていても屋上部の熱が執務室に伝わる事が考えられます。空調効率や結露対策として、断熱性能を更に強化しておく方が良いと考えます。

■省エネ性能

- ・ 自然換気ユニットは、岐阜市の風向き特性である北西からの自然風が、効率よく室内に流れ、十分な機能を発揮できるよう換気窓や高所の排気口の追加設置も考慮に入れて検討すると良いと考えます。
また、岐阜市の年間平均風速を確認すると、他の地域に比べて風速があるため、通常より自然換気ユニットの効果が見込めると考えます。
- ・ ナイトページ（夏季の夜間の冷たい空気の活用）を検討するならば、動力を使用したシステムも一考してみると良いと考えます。
- ・ デシカント空調（除湿空調）は、空調の除湿した空気と出入口から入ってくる湿った外気とのバランスや風除室の大きさなども含め、検討すると良いと考えます。

- ・ 複数の空調熱源で作り出す冷温水を共有化することで、空調熱源計画が効率的になると考えます。

■ B C P 対策

- ・ 複数の空調熱源をベストミックスする計画は、災害時の B C P 対策としても非常に有効であると考えます。
- ・ 1階エントランス部分に自然換気ユニットや換気用窓を設置することで、災害時の帰宅困難者などの一時避難の際に、自然換気を取り入れることが可能となり、有効であると考えます。